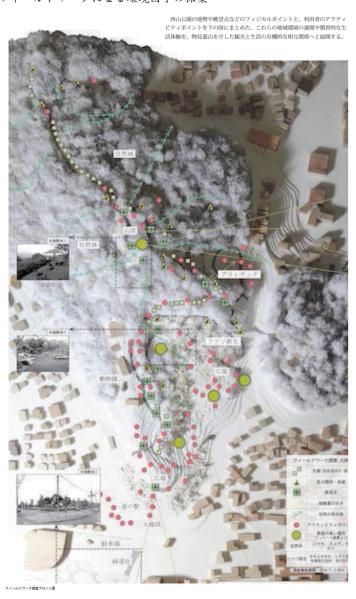
環境の翻訳による観光拠点の提案

- 福井県鯖江市西山公園における環境因子と構成 -

どのような場所も独自の生活体験や文化を有し、地域環境そのものを資源として捉えることができる。こうした、 場所に内在している空間資源を環境因子として見直すことを「環境の翻訳」と呼ぶ。具体的な「環境の翻訳」を行う にあたっては、敷地で得られた既存の場の様子から、新たに 76 個の「環境翻訳のレシピ」を作成し、このレシピを、 当敷地の西山公園内の麓、山腹、山頂の場所毎の建築計画に応用し、地域独自の建築空間を創出する。

本計画では「環境の翻訳」という視点から、どこにでもありそうな地域環境の活かし方を分析、検討し、地域の個 別性を場に取り戻す建築を提案する。

• フィールドワークによる環境因子の採集



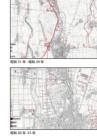
• 旧版地図を用いて街の変遷をたどる



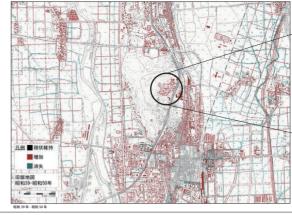
国土地理院が発行している輸江市の旧版 地図の全てを年代順に重ね合わせ、古い地図 と比較することで年代間での増加、消失、現 状維持されている場所、建物を明らかにし、 街が更新していく流れを理解する。

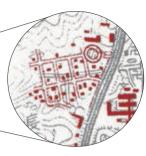
例えげ 昭和31年、昭和39年間の変響 鯖江台地の中央を切り、幹線道路を建設し

これにより福井市 - 鯖江市 - 敦賀市を結ぶ 円滑な交通を確保する。一方で、かつて当敷 地で行われていたスキーや花火大会といっ た文化が生われることになる。









昭和39年 - 昭和50年間の変遷 西山公園における造成・住宅建設が進められる。 都市公園指定範囲外の自然林を切り裂き、貴重 な緑地を開発する動向の発端となる。

• 都市構造からあぶり出す地域の習性

鯖江市資料 (総合治水基本計画、都市計画 の概要、景観づくりの基本目標)、国土地理 院資料を元に、以下4つの鯖江市の都市構 浩を探る。

- ① 道路 · 景観軸
- ② 公園緑地 -
- 田淀地域。
- ④ 利水ネットワーク

例えば、① - 道路・景観軸 - は、先述の旧 版地図分析(昭和31年-昭和39年)と照ら し合わせると、かつて山間部から市中心の陣 屋街へ続く古い農道が年代を重ねるごとに 拡張され、現在では南北に伸びる複数の景観 軸を唯一東西に貫通する"伝統芸術景観軸" に指定される。

この"伝統芸術景観軸"は、陶芸の里(旧 宮崎村)- 鯖江市街地 - 漆の里(河田)- 和紙の 里(旧今立町)-一乗谷朝倉氏遺跡(福井市) を結ぶ重要な景観軸となり、観光を軸とした 鯖江市のマスタープランや建築計画には欠 かせないことが伺える。













簡単な計算からみえてくる鯖江の現状

total 83.27ha (8327m²)

平成 26 年における鯖江市中 心部の公園緑地面積は、合計



1220788 人

56ha

館江市の公園緑地の大分を占め る西山公園の面積は56ha。 年間来場者数は1153000 人(平 成26年)にのぼり、今後も増加 傾向にあり、また鯖江市の人口も 県内唯一増加している。この公園 は鯖江市の観光拠点に指定され、 市民と細光客の合計 1220 を許容し、快適な都市公園として 機能する必要がある。



を 20.6(m / 人) にすることを目標にしているため、これを満たすには西山公園 56ha の 44.8 倍の 大きさが必要になってしまう。

∇ ≥ 2508.8ha

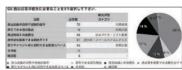
(250880m²)

• 公園利用者へのアンケート調査からの学び



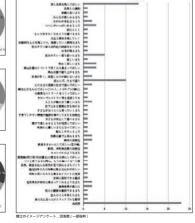
西山公園は、「都市計画の概要」(2013) に 基づき観光拠点計画が定められている。そこ で、観光拠点化を前提とする公園の使い方 に関するアンケート調査 (期間:2014.11.3-11.8、対象:公園利用者 101 人) を行った。

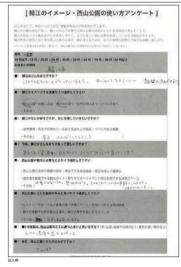
この調査結果では、散歩や子ども連れ家族 のレジャーたどの個別的た生活体験や抽博 特有の景観、計画に相応しい場所、公園利用 者が望む施設のプログラムなどを把握する ことができたため、それらを元に観光拠点化 に連関する配置計画、公園利用者が望む施設 プログラムを見出だし、各建築計画に採用す る。また別項目では、「美しい自然・景観を 残してほしい! 旨の意見が大部であるため. 現状の自然環境を保存する建築の在り方を 計画の前提とする必要がある。











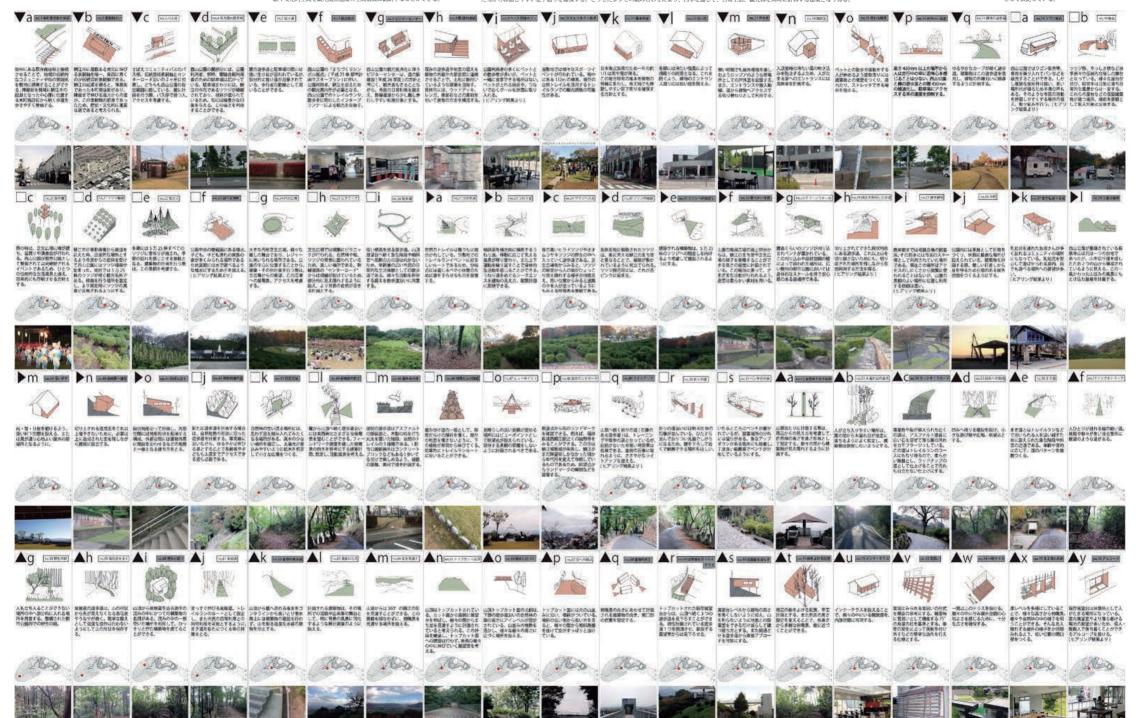
•「環境翻訳のレシピ」 レシピのもと

西山公園内で得られた既存の場の様子、4つのサーヴェイの記述を元に「環境翻訳のレンビ」を作成した。能から山頂を巡る西山公園の美しい景 観の個別性を夢見し、このレシピの組み合わせ、構成によって、地域精存の生活と観光の間に物見遊山による連関を持たせる。地域環境を体系化し、空間資源として見直すこの手段を用いれば、住民が大切にしている生活体験や文化が空間を観光風点施図の空間構成に顕示することができ

各々のレシビの分類、特徴、場所の位置を照らし合わせて、レシビ毎の空間特性や相互関係を分析する。個々のレシビは対応する計画場所での有形 や景観の一部として、地域独自の建築空間を創出する。

例えば、麓の計画に対応する▼cno,3 // 2.停、▼kno,11 原本外標、▼pno,16 450mm 標道、▼qno,17 誘導の遊歩道</u>を組み合わせることで、既 存の遊歩道を縫うように横断しながらバス停 2 ヶ所を接続、各棒をつなぐ半尾外空間を構成し、西山公園に設置された主要動除への誘導を図ることが できる。歩行者の安全を確保する 450mm 高の縁道が、バス待合所を縁倒のように設える。また、各棒の外域に対象が多価本空間は北陸特有の雨が多く、湿っ た雪から移動しやすい足下限りを確保する。こうしたレシビの組み合わせにより、四季を通じて、日常半洗、樹汁を全向間はよ許なする砂を込むり得る。 ※注即

- ▼=計画①:麓の計画に相互関係があるレシピ
 - ▶ = 計画②・山腹の計画に相互関係があるレシピ
- ▲ = 計画③:山頂の計画に相互関係があるレシピ □ = 公園全体の使い方に影響をもつレシピ として表記している。







麓における環境翻訳のレシピの構成

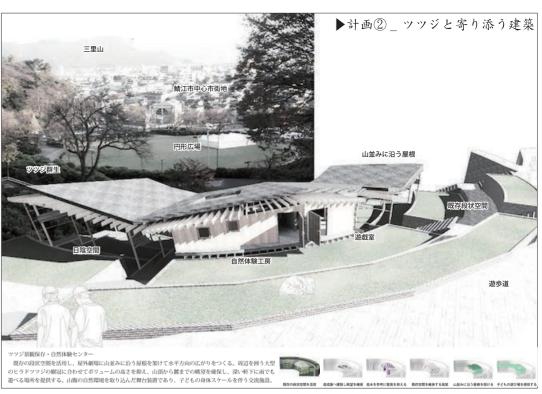


バス待合所、時刻表,掲示版を兼ねる雁木づくり





鯖江の情報展示回廊

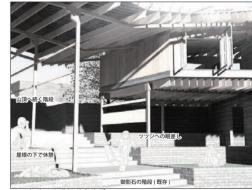


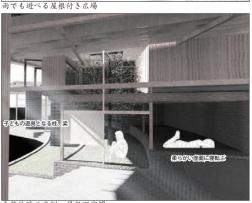




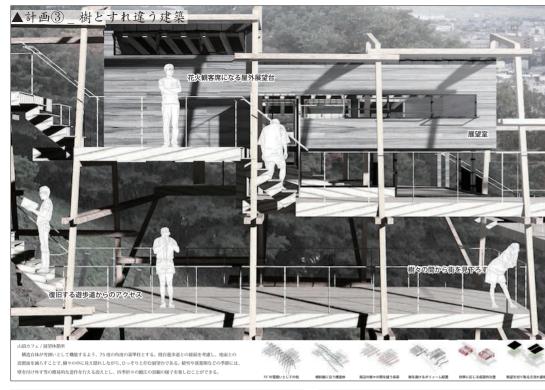


遊戯室側エントランス



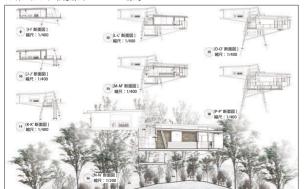


自然体験工房側 _ 屋根下空間





山頂における環境翻訳のレシピの構成



輸工の指揮者

展望室 (既存展望台 G.L より-4000)



仮設的につくられるロッジア

